

平成 21 年 4 月 3 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19830030
 研究課題名（和文） イギリスにおける知的障害者継続教育の移行支援機能に関する研究
 研究課題名（英文） Research on the Functions of Further Education for the Transition of People with Learning Difficulties in England

研究代表者
 丸山 啓史（MARUYAMA KEISHI）
 京都教育大学・教育学部・講師
 研究者番号：00452368

研究成果の概要：

イギリスの知的障害者継続教育においては、全体を移行支援ととらえる視点からカリキュラムが構想され、保育や木工などに関する職業実習が柔軟なスケジュールで取り組まれているものの、実際の卒業後の進路に関しては困難が多いことを把握した。役割が期待されているコネクションズも十分に機能しておらず、家族のあり方が移行支援に大きく影響していることが把握された。また、特別学校において継続教育部門を設置する動きがあることが確認された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	830,000	0	830,000
2008年度	1,120,000	336,000	1,456,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,950,000	336,000	2,286,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：特別支援教育

キーワード：教育学、知的障害、イギリス、継続教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の現代的意義

近年、知的障害児教育においては個別移行支援計画が重視されており、知的障害者福祉の動向をみても就労（移行）支援が強調されるなど、知的障害のある青年の学校から成人生活への移行支援が重要な課題となってい

る。他方、一般的な青年の移行支援をめぐって、イギリスにおける取り組みが先駆的な例として日本でも注目されてきている。また、近年の障害児教育および教育全般の改革動向にはイギリスの影響が少なからずみられる。

このような動向に照らして、イギリスにお

ける知的障害者教育と移行支援の関連を探求することには現代的意義があるといえる。そこで、本研究は、知的障害のある青年の移行に関して重要な位置を占める継続教育（further education）を主な対象とした。イギリスにおいては、高等教育とは別に、職業的な要素が強く定まった年限のない継続教育の領域が確立されており、知的障害のある青年を含め、多くの青年・成人がカレッジにおける継続教育に参加しているのである。知的障害者継続教育が移行支援に果たす役割の研究が求められていた。

（２）移行支援研究におけるイギリスへの注目と障害者問題の欠落

「学校から仕事へ」の青年の移行をめぐる近年の日本における研究において、コネクションズ（Connexions）をはじめとするイギリスの移行支援のあり方が注目されている。しかし、それらの研究においては、障害のある青年の支援についてはほとんど検討がなされておらず、移行支援システムにおける継続教育の位置も明確にされていなかった。

（３）知的障害児教育に関わる移行支援研究の活発化と課題

日本において知的障害のある青年の教育・移行支援をめぐる議論・研究は活発になっているが、日本の既存の教育システムのもとでの「移行支援計画」のあり方が焦点になる傾向があり、カリキュラム全体や教育システムのあり方も含めて移行支援のあり方を検討する研究が少なかった。

（４）知的障害のある青年の教育と移行支援をめぐる論点

第一に、カリキュラム全体のなかでの職業体験（work experience）・職業教育

（vocational education）の位置づけが問われてきている。それらが移行支援に果たす役割、非職業的な教育の意義などに関するさらなる検討が求められていた。第二に、「移行支援計画」とも関係して、移行に関わる教育機関と他機関との連携のあり方が問題にされてきていた。

（５）日本とイギリスにおける研究動向

外国の障害児教育に関する日本における研究は、義務教育段階の学校に関するものが多く、障害のある青年・成人の教育についてはあまり研究がなされていない。しかし、イギリスにおいては障害のある青年の移行支援に関する研究的関心が改めて高まっており、知的障害者継続教育の移行支援機能に関する研究を進めるうえでの手がかりとすることができた。

２．研究の目的

（１）国際的動向のなかでイギリスの知的障害者継続教育の特徴を明らかにすること。

OECD/CERI による文献などを検討することによって、知的障害のある青年の教育と移行支援の国際的動向を把握し、移行支援と関連する側面を中心に、イギリスの知的障害者継続教育の特徴を明らかにする。

（２）イギリスにおける知的障害者の移行支援システムの実態を明らかにすること。

知的障害者の移行支援に関わる諸機関の役割を把握するとともに、知的障害者継続教育を担うカレッジとそれらの機関とがどのような連携を図っているのかを明らかにする。また、そうした移行支援システムの成果

と課題について検討する。

(3) イギリスにおける知的障害者継続教育の移行支援機能を明らかにすること。

本研究の中核となる課題である。知的障害者継続教育の移行支援機能をめぐる構想・議論や、知的障害者継続教育が実際に移行支援に果たしてきた役割を検討する。また、移行支援の観点から、知的障害者継続教育のカリキュラムの特徴と職業体験・職業教育の位置づけを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 文献検討

①知的障害者の継続教育に関する文献検討。

知的障害者継続教育の歴史的展開に関して、そのなかでの移行支援の展開を中心に検討した。また、知的障害者継続教育のカリキュラム開発の展開を把握し、移行支援との関係について検討した。

②知的障害者の移行支援に関する文献検討。

OECD の教育研究革新センター (OECD/CERI) やイギリスの LSC (学習技能委員会) の文献資料をもとに、知的障害者の教育と移行支援をめぐる国際的動向の把握を行った。

(2) 訪英による調査

2008年1月～2月、2009年7月、2008年9月に、それぞれ10日程度の訪英による調査を実施した。文献・資料の収集および、関連機関を訪問しての見学・インタビューである。

①知的障害者の継続教育に関する調査。

障害のある青年・成人のためのカレッジおよび一般の継続教育カレッジを訪問し、スタ

ッフへのインタビューを含む調査を行った。また、障害のある子どものための特別学校を訪問し、青年期教育の実態や移行支援の取り組みについて調査を行った。

②知的障害者の移行支援に関する調査。

カレッジや特別学校における移行支援の取り組みについて調査を行うとともに、コネクションズ (Connexions) における知的障害者に対する取り組みについて調査を行った。

4. 研究成果

(1) 国際的動向のなかでのイギリスの知的障害者継続教育に関して

国際的には、職業的側面だけでなく家庭生活や社会生活を含めた全体的視野で「成人生活への移行」をとらえる視点から、知的障害のある青年の教育がとらえられてきたことを確認し、イギリスの知的障害者継続教育もその流れのなかにあることを確認した。

一方で、就労自立を強調する政策的動向が知的障害者継続教育にも影響を与えており、そのような動向に対してカレッジのスタッフからは批判もあることを、訪英による調査等によって把握した。

(2) 知的障害者の移行支援システムの実態に関して

イギリスにおいては、知的障害者の移行支援においてコネクションズの役割が重視されてきているものの、実際には十分な役割を果たせてはいないことがうかがえた。継続教育カレッジにおける知的障害者教育とコネクションズ等の連携が図られてはいるが、継続教育後の進路保障は小さくない困難を抱えている。

また、移行支援においては家族のあり方が

大きく影響していることなどが把握できた。

(3) 知的障害者継続教育の移行支援機能に関して

知的障害者継続教育において移行支援の視点が強調されるなかで、基礎的スキル・職業的スキル・生活的スキル・社会的スキルを中心にしたカリキュラムが形成されてきた過程を明らかにした。

また、継続教育カレッジにおいて、保育や木工などに関する職業実習などが取り込まれているものの、実際の卒業後の進路については困難が多い状況にあることを把握した。

さらに、継続教育カレッジにおいて知的障害者の教育や移行支援が進められているだけでなく、特別学校において継続教育部門を設置する動きがあることが確認された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ①丸山啓史 (2008) 「知的障害のある青年の高等部教育と就労」『障害者問題研究』、36(4)、pp.29-36、査読無し。
- ②丸山啓史 (2008) 「イギリスにおける障害のある青年・成人の継続教育」『障害者教育科学』、57、pp.66-71、査読無し。
- ③丸山啓史 (2008) 「イギリスの知的障害者継続教育におけるカリキュラム開発の展開」『日本社会教育学会紀要』、44、pp.83-91、査読有り。
- ④丸山啓史 (2007) 「イギリスの知的障害者継続教育における成人学生拡大過程」日本特別ニーズ教育学会『SNEジャーナル』、13、pp.119-131、査読有り。

[学会発表] (計 1 件)

- ①丸山啓史 「イギリスの知的障害者継続教育におけるカリキュラム開発の展開」、日本特別ニーズ教育学会、2007年10月21日、筑波大学。

[図書] (計 2 件)

- ①丸山啓史 (2009) 『イギリスにおける知的障害者継続教育の成立と展開—青年・成人教育の機会拡大とカリキュラム開発』クリエイツかもがわ、192 ページ。
- ②丸山啓史 (2007) 「社会教育・生涯学習をめぐる課題」荒川智・越野和之・全障研研究推進委員会編『障害者の人権と発達』全障研出版部、pp.152-161。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸山 啓史 (MARUYAMA KEISHI)
京都教育大学・教育学部・講師
研究者番号：00452368

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし